

# 雷 20050810

いやな級長 闘う詩人の生徒

神様はどこに  
どうも天川大峰山上ヶ岳に神はいるらしい  
もうすぐ還暦を迎えるのを期にうばそく役行者に従い 峰伝いに箕面から天川に  
神に会いに行く

役行者は701 0607箕面天井ヶ岳から母とともに天上に逝った  
箕面での鍛錬山行 2回目にカエルと雷に出くわした  
突然の激しい夕立に大きいカエルは笑っていた  
轆かれて干からびた紙のようになったカエルは地を流れる  
雨水に浸されいた 乾いた皮がふやけて生き返る

大きな雷鳴と天を裂くイナズマに持っているすべてを投げ出し ベルトもハズシ  
ゴミだらけの道端に亀のようにうづくまる  
大好きな雨に全身をふやけるように打ちつけられ 誰もいない山中で時は止まって  
雷とイナズマは止まらない

30年前工事現場で落雷に会い 命を落とした親友の死顔を 雷がまじかに落ちる  
たびに思い浮かべた これで修行なく神に合えるかと思った

終わった 微かに空が明るくなった  
さまように帰り着き ビールで生き返った 寝た

遠くに淀川の大花火の環が色と形を変え輝き見えた  
いつものように生駒の上から飛行機が小さな光を点滅させながら  
遅刻しないよう 次々に滑り台を滑り降り 伊丹を目指す

天川の前葛城は黒雲に覆われていた その時全天が輝く  
遠くの雷が形を変え 場所を変え 暴れる  
その前で 淀川大花火は 繰り返される  
ジャンボもますますあわてて 滑っている

あの大きなジャンボの光は大花火の 100 分の1  
大花火の光は雷の 100分の1  
いつまでも続く 光の三重奏

楽しみながら 生きている自分を感じる

神はまだまだ天にいたと思った